

サンビオティック農業通信

<http://www.sunbiotic.com>

● 秋馬鈴薯やっぱり増収できました！春バレの早だしも期待！

春馬鈴薯のサンビオティック栽培で「わらじのような」大きな馬鈴薯を収穫した西海市の田中さん。今回は、秋馬鈴薯のサンビオ栽培に挑戦しました。

驚くことに、サンビオ栽培区はなんと**対象区よりも10日程度も枯れ上がり早く、しかも増収**していました。今回は前回の失敗？を踏まえ、通常の株間を18cmから14cmに狭め、**密植によるMLサイズ中心での増収**を狙いました。

収穫前に試しに2株分を掘り上げてみました。右の写真がそれです。枯れ上がりの早さが全く違うことがわかるでしょう。そして目的の増収も見事達成。今回はM～Lサイズの素晴らしい馬鈴薯が採れました！対象区と比べて玉ぞろいもいいのも写真から分かりますね？田中さんも収穫が楽しみなようでした。

また、田中さんがおっしゃるには、とにかく**成育が旺盛でしかもスピードが速い**ので、**春バレの早出し**ができそうということです。なるほど、春馬鈴薯を10日も早く出荷できれば相場も高いでしょうし、しかも増収となれば、言うことはないですね。また、春馬鈴薯の時期が楽しみになってきました。



- ・簡易計測で重量比14%増収！
- ・肌がきれいでソウカ病が少ない！
- ・MLサイズ中心で玉ぞろい良し！
- ・一般栽培と比較すると45%増収！（密植しない場合との比較）

☀ 今回の馬鈴薯サンビオティック栽培基準

株間14cmの密植（一般より25%狭く）
 有機配合肥料（13.8.8） 60kg / 反（元肥）
 鈴成（1.8.2） 225kg / 反（元肥）
 菌力アップ 20 / 反（植え付け後灌水）

● 大玉トマト(れいよう) 例年にない素晴らしい生育！！



島原市のトマト農家の杉本さんからうれしいニュースが届きました。今年から本格的にトマトのサンビオティック栽培を導入しましたが、例年にない素晴らしい生育だそうです！早速圃場を見に行ってみました。

確かに生き生きとした勢いのある生育が見られました。杉本さんの観察では、根の張りが良く毎朝きちんと葉露が上がり、葉にテリと勢いがあると言われていました。おかげで例年困っている葉カビなどの病害もほとんどないそうです。

菌力アップの作用によって発根が促進され、そこに鈴成のリン酸やカルシウムが効いたせいでしょう。他にも、花が大きい、葉が厚い、茎が太い、実が硬くガクがピンと力強く張っています。

これから寒くなると、ますます他の農家さんと違いが出てくるでしょう。これからが楽しみです。

原油高騰が農家を直撃！サンビオ栽培なら暖房費も節約！！

どうしようもない...、そんな声が聞こえてきます。原油高騰のあおりで、トマトやイチゴ栽培、ピーマン、キュウリなど冬の**ハウス栽培は重油代で赤字**、という困った事態になっています。農家さんにとってこの問題は切実です。

サンビオティック栽培では、独自の微生物培養技術に応用した「菌力アップ」や、根から有機物を直接供給する優れたアミノ酸液肥「糖力アップ」などを開発しています。これらを使うことで、**暖房費などの光熱費を抑える**ことも可能です。ぜひご活用ください！！

菌力アップ

サンビオティック資材の基本商品。分解力・繁殖力の優れた菌力アップの微生物は、地中の栄養物・有機物を分解しながら発熱するため、地温が1～2上がるります。植物は気温よりも地温に敏感と言います。**ハウスの設定温度を1～2程度下げても**、十分な有機物・栄養物と菌力アップを施せば、**十分な収量**が見込めます。また発根が促進されますので、バランスが良く締まった実が収穫できます。秀品率の向上でも経営にプラスです。



糖力アップ

糖力アップ（灌注用）は、魚のミンチを加熱処理して溶け出す濃厚なタンパクエキスを酵素処理して、海藻エキスと黒糖をプラスした、吸収のよいアミノ酸液肥です。低分子に処理されたアミノ酸は、根から直接吸収されるため、冬の低温で光合成が停滞した場合に特に大きな力を発揮します。光合成をしなくても、直接アミノ酸を成長や結実に利用できるため、**ハウスの温度を下げる**ことができ、**暖房費の大きな節約**になります。また、イチゴなどの電照栽培をするものでは、**電照時間も節約**することができます。また、収量アップはもちろん、実は色が濃く、食味の良いものが実ります。



アスパラガス栽培 春の準備始まる

アスパラガス栽培も春の準備が始まりましたね。西海市の熱心なアスパラ農家の辻さんも、昨年からは菌力アップによる土作りを進めています。

菌力アップで堆肥を作ると、温度が上がりがやすく作りやすいし、病害の出にくい堆肥ができるそうです。今年も豚糞をベースに、もみ殻や裁断したワラを原料にいい堆肥ができそうです。

また、辻さんの発見は、菌力アップと鈴成を、この時期から施しておくことで、2月の初出荷が他の農家さんよりも1週間ほど早いそうです。また今年も増収も目に見えるほどで、お友達の農家さんからその秘訣を聞かれたそうです。来年も、サンビオアスパラでぜひ、素晴らしいアスパラを作ってくださいね！



菌力アップでの堆肥発酵の様子
増収の秘訣は菌力アップでの土作り

<アスパラガス栽培基準>

1～2月 (春肥)	菌力アップ	}	反当5 ずつを水に溶かして灌水。収穫開始まで10日おきに。
	糖力アップ		
	鈴成		反当15袋を全面施用し、畝溝を軽く中耕。
5～9月 (立茎以降)	菌力アップ	}	反当5 ずつを水に溶かして三種混用で月に1回灌水。
	糖力アップ		
	追肥用液肥		



温州みかんの収穫も大詰め。来年もたくさん実ってね！！

いよいよ温州みかんも収穫大詰め。自社農園の青島も、実がなりすぎて枝が折れそう...、ということで急遽枝吊りを施して、収穫を待ちました。いよいよ年末までラストスパートです。

青島も味が良く、糖度も14度前後あります。酸切れも丁度いいので、食べやすく美味しい！従業員もみかんの撰果の合間を縫って総出で収穫作業です。みかんの樹には、今年のご苦労様でしたと言いながら収穫しています。

みかんのサンビオティック栽培では、隔年結果を防止する、というの大きなテーマの一つです。確かに、例年なら収穫直後には葉が黄色くなるほど樹勢が落ちてしまいます。しかし、サンビオ栽培では、鈴成と糖力アップのリン酸やアミノ酸が効くため、樹勢が衰えません。そして、収穫後からすぐに尿素と菌力アップ、糖力アップの葉面散布をしてさらに樹勢を回復させます。これで隔年結果対策もばっちり！！

みかんたち、来年もたくさん美味しい実をつけてね！！



鈴なりのみかん(青島)



収穫作業のみなさん

サンビオティックファーマー第1号 有馬会長



サンビオティックファーマー 有馬静雄氏

- ・鹿児島県農協果樹部会連合会理事
- ・桜島町琵琶振興会会長
- ・桜島町柑橘ハウス振興会会長
- ・全国琵琶低木栽培の指導者

鹿児島県は桜島のふもとでみかん、ビワ、パッションフルーツなど様々な果樹の指導者として活躍されている有馬会長。土作りや微生物に強い信念と熱意を持って長年研究されてきた。サンビオティックの菌力アップに出会い、現在は全ての果樹にサンビオティック栽培を導入しています。

果樹栽培に並々ならぬ情熱を持たれる有馬会長は、鹿児島のみかんやビワの品質向上と農家経営の向上のために様々な研究をされています。今年は、サンビオティック栽培でみかんもビワも素晴らしい成果が上がりました。希少フルーツのパッションフルーツにもサンビオ栽培を導入され、ご覧の通りの生育(左写真)普通よりも2倍も大きな葉になった！と喜びの報告をしてくれま。これからも、ぜひ日本農業の活性化のためにご活躍を祈ります！



編集者より 巻末ご挨拶

いよいよ年も押し迫り、師走もあっという間に走りぬけ、2008年がやってきます。来年が皆様にとって、自然災害などなく健康で充実した良い年でありますよう、お祈りいたします。また、今後ともサンビオティックをお引き立て頂きますようお願いいたします。では、良いお年を！！